

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	志村 健	経営	H2001068
	②	大川 貴子	福祉	H2301029
	③	猪股 久美子	福祉	H2301111
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	烏山小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	157-0064		
	所在地	世田谷区給田1丁目2番1号		
	TEL	03-3300-6195		
事業所代表者氏名	事務局長 近山 守			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 25 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 12 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 25 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 6 日			
評価合議日	2025 年 10 月 6 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 子どもの視点にたち、子どもにとって楽しく安心して過ごせる場となること 2) 子どもが自分の気持ちを表明できるように援助し、子ども自身が遊びや生活に主体的にかかわること 3) 様々な家庭環境にある子どもや障害のある子どもたちが互いを尊重し、共に過ごすインクルーシブ環境を作ること 4) 安心して子どもを託せるための保護者への情報提供や保護者と連携した子育て支援 5) 世田谷区の地域制や関係機関の状況を反映した世田谷らしい連家・協働</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが過ごしやすい居場所づくりのできる人材 ・子どもの声を聞き、その日良かったことや困ったこと、その子の想いを聞ける人材 ・子ども達一人一人もしくは子ども同士の間を継続的に見守り、放課後の主体的な過ごし方をサポートする役割 ・子ども達の、心身の安全確保に努め、環境整備や運営を行う役割 ・来所・退所の管理や間食の提供など、新BOP学童クラブの機能それぞれを分担し、運営を行っていく役割 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達一人一人の個性を尊重し、子ども達の主体的な遊びや放課後の生活を見守り、関わっていく使命感 ・それぞれ与えられた役割に努め、運営を行う役割 ・チームでの新BOP学童クラブ運営し、主体的に意見を発揮しつつ仲間の意見を聞くことのできる協働の姿勢 ・学校という公的な場所に位置する新BOP学童クラブの職員としての倫理観を持ち、職務にあたる姿勢

調査対象	登録児童全員を対象とした。
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 137

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	137	0	137
共通評価項目による調査の有効回答者数	47	0	47
利用者総数に対する回答者割合(%)	34.3	0.0	34.3

利用者調査全体のコメント

調査対象者137名のうち、47名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの不満や要望は対応されているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、43名が「大変満足、満足」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「ドッジボールが楽しい」「友達と遊べて楽しい」「ゲームや本を増やしてほしい」「おやつ時間が遅い」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	40	3	2	2
40名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「楽しい」「ドッジボールが好き」「お絵描きが楽しい」「他のクラスの子と遊べて楽しい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	36	6	0	5
36名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「困った時は助けてくれる」「たまに話を聞いてくれない」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	41	3	1	2

41名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「アイスやスナック菓子がおいしい」「おかわりしたい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	20	2	0	25
20名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、25名が「非該当・無回答」と回答している。また、「意見を言う機会がない」「話し合ったことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	40	1	0	6
40名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、6名が「無回答または非該当」と回答している。ルールの周知がしっかり行われている様子がうかがえる。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	5	7	4
31名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。また、「自分たちで片付けできない」とのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	43	2	1	1
43名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「服装はきちんとしている」「服装は自由」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	46	1	0	0
46名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「お世話になったことがある」「冷やしてくれる」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40	2	0	5
40名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「いじめは見たことない」「すぐに助けに来てくれる」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	3	0	3
41名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。子ども主体の対応が実践されている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	33	2	1	11
33名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「秘密はない」「秘密を話したことない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	42	1	0	4
42名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「後でちゃんと対応してくれる」「お願いしたことがない」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	23	2	4	18
23名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」、18名が「無回答・非該当」と回答している。また、「第三者委員がわからない」とのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	七つの目標を基盤に個性と専門性を活かした柔軟な運営を進めている 区の「七つの目標」を軸に、職員一人ひとりの個性と専門性を活かした柔軟な運営を行っている。絵画・音楽・スポーツ・IT・保育など多様な分野の得意を子どもの体験に結びつけ、学びと楽しさを両立させている点が特徴である。地域との連携にも力を入れ、学校やPTA、親父の会、児童館と協働し、伝承遊びや地域文化の継承を推進している。支援面では「子ども中心」「地域共育」の理念を基盤とし、多職種が連携して柔軟に対応している。また、職員育成にも注力し、経験と特技を活かして次世代のリーダーを育成している。	
	七つの方針を日常の場面で子どもに伝え社会性と協調性の育成を進めている 区の「七つの方針」を日々の活動の中で子どもたちに直接伝えることを重視している。おやつ時間など日常の場面を活かし、「言葉も行動の一部であり、相手を思いやるのが大切である」という視点で、具体的な場面指導を行っている点が特徴である。職員は率先して模範を示し、叱る際にも子どもの気持ちを尊重しながら、信頼関係を大切に接している。また、目標を文字だけでなく絵や掲示物など視覚的に示し、子どもが理解しやすい形で共有している。こうした実践により、社会性や協調性を自然に育む環境を整えている。	
	教育現場との協働を強みに先を見据えた運営体制を整えている 事務局長は地域学校連携課と児童課が一体的に運営する体制を「現場が最も動きやすい仕組み」として高く評価している。教育現場との連携が円滑であり、職員が学校と協働しやすい環境が整っていることが大きな強みとなっている。事務局長は、年間計画や保護者説明会資料を早期に入手し、先を見据えた調整を行うことで、行事や学期運営をスムーズに進めている。また、他の事務局長から運営方針や体制に関する相談を受けることも多く、館長と協議の上で的確に指針を共有するなど、リーダーシップを発揮している。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>学校と協力し多様な子どもが安心して過ごせる環境を整えている</p> <p>区が掲げる「三つの間(空間・時間・仲間)」のうち、特に空間の充実を重点課題としている。現在は学校と連携し、他の教室等を活用しているが、児童の増加に伴い、より多様な活動を展開できる環境整備が求められている。その一方で、屋外活動を通じて子どもたちの主体的な遊びや交流の機会が広がっており、安全管理を重視した運営を行っている。さまざまな背景を持つ子どもを受け入れ、誰もが安心して過ごせる居場所づくりに努めている。学校との協力体制も良好で、地域ぐるみで子どもの成長を支える基盤を整えている。</p> <p>地域の教育・文化拠点として生活力を育む支援を展開している</p> <p>共働き家庭の増加に伴い、放課後に安心して過ごせる居場所への需要が高まっている。新BOP体制の導入により一部の学童クラブでは200名を超える規模へと発展した。これは地域の信頼と社会的要請を反映したものであり、今後の施設整備に向けた重要な課題でもある。一方で、開所時間など大きな要望は少なく、地域ごとの文化や特色を尊重した運営が続けられている。また、学童を「生活力を育む教育の場」と位置づけ、イベントなどの体験を通じて子どもたちに生活技術や伝統を伝承し、地域の教育・文化の拠点としての役割を果たしている。</p> <p>高学年の自立支援と地域の見守りを両立した居場所づくりを推進している</p>		

新築マンションの建設や転入世帯の増加により、区全体の児童数減少傾向に反して、今後も児童数の増加が見込まれている。すでに年度途中での入会も見られ、学校と学童クラブが連携して受け入れ体制を整えている。特に高学年児童に対しては、自立と地域の見守りの両立を意識した環境づくりが重要であると考えている。今後は、地域住民や関係機関と協働し、学童クラブを中心とした「地域共育」の循環を再構築することで、誰もが安心して過ごせる放課後の居場所づくりを目指していく方針である。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

カテゴリ-3の講評

公設の使命を重んじ安全で安定した放課後支援の継続を進めている

区の学童クラブは、長年にわたり「公設公営を守る」という理念のもとで運営されてきた。これは行政サービスにとどまらず、地域の子どもたちに安全で信頼できる放課後の居場所を提供するという区職員の使命感によって支えられてきたものである。現場では、新人職員にも区の歴史を受け継ぐ責任を伝え、公務としての誇りと意識を大切にしよう伝えている。今後は、民営化の流れが進む中でも、公設としての信頼と安定を守ることが、学童クラブの質と文化を継承する最も確かな道であると位置づけている。

誠実な対応と協議を通じて地域からの信頼を高めている

地域との調和を重視した運営を行い、これまで近隣からの苦情や騒音トラブルはほとんど発生していない。地域住民とは良好な関係を築き、安心できる環境を維持している。学校や町会、青少年委員らと情報を共有する「学校連絡協議会」への参加も積極的で、地域との信頼関係を一層強化している。また、トラブル対応では「その日のうちに解決」を原則とし、迅速な話し合いで誤解や不安を残さない体制を整えている。こうした誠実で実践的な運営が、地域と家庭から高い信頼を得ている。

児童館と連携した放課後の安全安心な居場所づくりを連携して進めている

児童館と学童クラブは、長年にわたり放課後の時間帯において、子どもたちが安全に集い、交流する地域交流の拠点としての役割を果たしている。児童館では学童クラブを卒業した4～6年生が地域で安心して過ごせる環境づくりを目指し、住民への丁寧な働きかけを続けている。地域の構造変化や新旧住民の関係希薄化が進む中で、「地域ぐるみの見守り文化」を継承していくことが課題である。その中で、学童クラブと児童館は学校・家庭・地域をつなぐ中間支援的な役割を強化し、時代に合わせた新たな地域連携モデルの構築を進めている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>空間課題の改善に向け行政・教育・福祉が連携した環境整備を進める意向である</p> <p>運営における最大の課題は「空間の狭さ」である。子ども同士が接触するほどの限界環境にあり、安全確保の観点からも改善が求められている。学校と協力し改善を模索しているが、児童数増加を見据えた抜本的対応が必要である。事務局長は、教育・福祉・行政の縦割り構造が根本要因と捉え、横断的な連携の重要性を指摘している。特に学校との認識差を埋め、放課後の安全と自立支援の両立を図ることが今後の焦点としている。行政・教育・福祉が連携し、安心して過ごせる放課後環境の確立していく方針である。</p> <p>学校・行政・地域が連携し統一的な災害対応体制の構築を進めている</p> <p>BOPの整備が今後の重要課題と考えている。特に学校職員が不在となる夏休み期間の災害対応に脆弱性が見られ、学校ごとに方針が異なる点が課題となっている。事務局長は、区全体での統一的対応と校長会を通じた情報共有の必要性を強調している。過去の震災時には対応の分断が生じた教訓から、資材の共用や児童館での一時預かり体制の整備など、地域防災との連携強化の必要性を感じている。今後は、児童福祉と防災を統合した実効性あるBOPを策定し、行政・学校・地域が一体となって安全で持続可能な放課後環境を構築する意向である。</p> <p>紙ベース管理と物理的遮断により高水準の情報保護を実践している</p> <p>情報保護を最優先とし、紙ベースでの記録・保管を基本とする慎重な運用を行っている。デジタルデータの外部流出を防ぐため、個人PCの使用やデータ持ち出し他のメディアの接続を全面的に禁止し、情報の物理的遮断を徹底している。ICT業務は専任職員が担当し、責任の所在を明確にしている点も特徴である。この体制は効率性に課題を残すものの、現場の安全意識と情報保護への責任感を反映している。今後は、堅牢なセキュリティを維持しながら、段階的なICT活用をどう実現していくかが組織運営上の鍵となっている。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ-5の講評

若手育成と現場主体の組織づくりで信頼と一体感の醸成を図っている

少数精鋭による機動的運営を方針に掲げ、職員一人ひとりが主体的に動ける組織づくりを重視している。プレイングパートナーを中心に若手職員の育成を進め、現場で判断し行動できる力を培っている。新任者には理念と基本姿勢を丁寧に伝え、学びと実践が連動する環境を整備している。事務局長は欠員を抱えながらも率先して現場に立ち、行動で示す姿勢を貫いており、信頼と一体感を高めている点が特徴である。今後は、人材確保と専門性を両立させ、子どもの発達を理解し責任を持って関わられる職員を育てることを目指している。

階層別・実践型研修を通じ職員の専門性と支援力向上を進めている

職員の役割や経験に応じた実践的な研修体制の整備を進めている。事務局長は階層別研修の必要性を重視し、特に研修機会の少ない短時間非常勤職員への実施を区に要請している。医療や幼児教育の経験を持つ職員には、それぞれの専門性を活かした内容を検討し、小学生の発達特性に応じた支援力向上を図っている。また、プレイングパートナー向けには内部研修を実施し、終業前の短時間で虐待対応などの事例共有を行っている。これにより離職防止と共通理解の深化を実現しており、「階層別・実践型・継続的」な育成モデルとして成果を上げている。

現場体験と資格支援を両輪とした次世代育成モデルを推進している

次世代育成を「現場での学び」と「資格取得支援」の両輪で進める独自の人材育成モデルを展開している。大学生を対象に、現場で子どもと関わる体験を通して教育・福祉分野への関心を育み、保育士や教員、社会福祉士などの資格取得を支援している。進学や試験対策について具体的な助言を行い、実際に指導員として現場に戻る若手人材も生まれている。この取り組みは、学童クラブを「子どもの育ちを支える場」から「未来の支援者を育てる場」へと発展させるものであり、地域と教育をつなぐ新たな人材循環の拠点となっている。

7 カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 子ども達に遊びを通じて、様々な交流や体験ができるように、子どもの声を反映し環境の充実を図る	
【取り組み】 子どもの意見をできる限り聴き、出された意見を職員で協議・検討するため、「子どもの声ポスト」を設置した	
【取り組みの結果】 多くの児童からポストに意見が入り、令和7年度の新BOP運営に目標設定及び日常活動運営に活かすことができた	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 子どもの意見を運営に反映する仕組みとして職員が子どもの声を聞きミーティングで共有するようにしている。子どもたちが自由に提案をすることで、児童館のお祭りに出店するなど自分の意見が形になる喜びを経験している。この取り組みは、子どもの主体性や自己表現力を育む実践として高く評価されている。さらに、保護者も投稿できるようにし、子育ての悩みや意見を受け付けることで家庭との双方向的な連携を強化している。導入は現事務局長によるものであり、職員と協働しながら段階的に運用を定着させている。子ども・職員・保護者の三者をつなぐこの仕組みは、参加と共創を重視する学童クラブ運営の象徴となっている。	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 保護者と連携しながら児童一人ひとりの社会性・創造性を養う	
【取り組み】 保護者会やお迎え時などに保護者との連携を密に行うことで、日常から意見の中質を図ることとした	
【取り組みの結果】 これまでの父母会などの形式にとらわれず、現代のやり方を見出し、様々な意見の集約と運営絵の反映が実現した	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
地域や家庭のつながりの希薄化を背景に、保護者同士の関係再構築を重要課題としている。事務局長は「親のコミュニティを意図的に作る必要がある」と述べ、保護者会等では保護者同士が話し合う場を設けたり、保護者後の保護者同士の雑談に職員も耳を傾けるなどを行っている。保護者からはクラブの方針に関する意見など様々な意見交換が行われ、家庭と学童クラブをつなぐ新たな関係づくりを支援している。保護者から寄せられる要望は「お菓子」「おもちゃ」など素朴な内容が多く、事務局長はこれを「子育て観が平均化してきた良い兆候」と評価している。小さな声を拾い、家庭・地域・学童が再びつながる仕組みづくりを進めている点が特徴である。	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリー1の講評		
<p>学童クラブの情報は区のホームページや児童館等から得られるように取り組まれている</p> <p>区のホームページには事業内容や申し込み方法などが詳しく掲載されており、児童課や各新BOPなど複数の申し込み窓口が用意されている。入会申請書は保育園や出張所、まちづくりセンター、各総合支所など身近な場所で配布されており、誰でも手に取りやすいよう工夫されている。保育園の年長児保護者会に職員が出席して画像を映しながら活動内容や施設の説明を行っている。管轄の児童館では地域で連携している保育園保護者を対象に説明会を開催し新BOPの概要を説明している。サービスを選ぶための情報が届くよう配慮されている。</p> <p>案内資料は保護者の特性に合わせて作成され関係機関とも情報共有し連携が取られている</p> <p>子どもや保護者が安心して情報を受け取れるよう、分かりやすさに配慮している。案内資料は紙と電子版の両方が用意されており、外国語版や障害のある方にも対応した資料は区で整備されている。今年度は外国籍の利用者はいないが、いつでも対応できる体制が整っている。幼稚園への直接的な情報提供は行っていないが、就労中の保護者のつながりを通して情報が伝わり、入会希望につながっている。区の児童課とは日常的に連携しており、児童相談所や子ども家庭支援センターとも必要に応じて情報を共有し、ケース会議で受け入れ体制を話し合われている。</p> <p>保育園児の新BOP見学や子どもや保護者の不安を軽減するため見学が随時行われている</p> <p>見学を希望する家庭に対して年間を通じて見学が行われ、保育園の年長児クラスの見学の機会も設けている。小学生が実際に過ごしている時間帯も見学が可能で、生活の様子や雰囲気を感じ取ってもらえるようにしている。午前中の説明のみの対応も行き、電話予約や来訪時の即時対応にも対応している。見学時には、初めての環境への不安が和らぐよう、友だち作りの支援や人数の多さの利点、特別支援学級の児童の過ごし方などを説明している。新1年生向けの全体説明会は毎年3月の土曜日に行い、来られない家庭には個別に代替日を設けて対応している。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
入会の案内はしおりに沿って説明しおたよりなどへの写真掲載も承諾を取っている 新規入会家庭には年度末に入会説明会を実施し、途中入会の場合は個別に対応している。「新BOPのしおり」を用いて、基本的なルールや利用の流れを分かりやすく伝えている。利用料金については募集案内に明記されており、延長利用やデリバリー弁当など追加費用が発生する場合は、お便りやメールで明確に説明している。活動への参加や写真使用など承諾が必要な事項については、保護者の意向を文書または電話で確認し、記録として残している。こうした丁寧な説明と確認により、保護者との信頼関係を築き、安心して利用できる体制を整えている。		
1年生が学童クラブの生活になれるよう不安を取り除くための工夫が行われている 4月1日から入学式までは1年生のみの時間を設け、子どもたち同士の関係を築けるよう支援している。この期間には、学童の生活の流れや施設内の見学を通じて安心感を持てるようにしており、受け入れ時には保護者から不安や配慮事項を聞き取って対応している。個別の事情や健康面については「児童票」や「アレルギー調査票」などで把握し、必要な支援に活かしている。慣れない環境でのストレスを軽減するため、気に入っているものや好きな遊びを聞き取り、家庭での生活習慣も取り入れて「居場所感」を大切にしている。		
入会当初からゆるやかに自立できるよう「お留守番質問シート」を使い支援している 卒会や途中退会を迎える子どもたちが安心して次の生活へ進めるよう支援を行っている。秋には2、3年生を対象に個人面談を実施し、特に3年生の「学童を卒会することへの不安」に寄り添いながら、家庭での過ごし方や自立に向けた助言をしている。「お留守番質問シート」を使って保護者と子どもが一緒に不安や準備のポイントを整理し、保護者会などではBOPや児童館との両立など、次のステップをわかりやすく案内している。退会手続きが電子申請となったことで、相談がないまま申請が進む場合もあり、物品の返却や連絡の行き違いが課題となっている。		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>年間計画は小学校の行事を考慮しながら年度末に作成し内容は保護者に伝えられている</p> <p>新BOPでは子ども一人ひとりの発達や生活の様子に合わせて、安心して過ごせる育成支援を計画している。年間計画書は前年度の3月から作成を始め、4月に区へ提出し、学校行事なども考慮しながら段階的に支援内容を組み立てている。保護者には配布せず、年度初めの説明会でスライドを使って概要を伝え、その後は毎月の「BOPだより」で変更や最新情報を確実に共有している。子どもの成長や状況の変化に応じて面談や観察を行い、支援内容を柔軟に見直すことで、発達に配慮が必要な子どもも含めた個別的な対応をしている。</p> <p>配慮が必要な子どもの様子は全職員で共有され個別のノートに記載されている</p> <p>子ども一人ひとりの状況を把握し、支援に反映させるための記録体制を整えている。配慮が必要な子どもについては個別の支援シートやノートを作成し、日々の様子や援助内容、次回への申し送り事項などを具体的に記録して職員間で共有している。子どもたちの日々の行動やトラブル対応の方針をミーティングノートに記載し、全員が状況を把握できるようにしている。ケース会議や関係機関が参加する連絡協議会も定期的実施し、レジメを用いて進行することで情報の整理と確認を行っている。保護者からの手紙や相談なども保管し支援計画に活かしている。</p> <p>ミーティングノートは書式が決められており全職員が確認するよう取り組まれている</p> <p>ロングミーティングでは次第に沿って話し合った内容を全員で確認し、個人面談の内容や必要な事項は日々のミーティングで伝えている。子どもの気になる様子や対応方針を話し合い、ミーティングノートに記録して、欠席した職員も後から確認できるようにしている。要配慮児童用ノートや記録は、全職員が必要な情報をすぐに見られる体制にしている。さらに、子どもの変化に応じて記録を更新し、発達に課題のある子どもへの対応研修や関係機関との相談機会も活用することで、職員の理解を深め、安心して過ごせる育成支援につなげている。</p>			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どもの情報の外部との共有はあらかじめ保護者の同意を得て関係機関と連携している</p> <p>子どもに関する情報を外部と共有する際は、必ず保護者の同意を得ることを原則としており、児童票などであらかじめ了承を得た上で、必要な範囲で関係機関と連携している。写真の使用など個人情報に関わる事項についても、場合によって個別に連絡を取り、確認している。子どもの氏名や個人情報を出すときは新BOP内や学校との話し合いの時に限るよう職員全体で情報管理の意識を高めている。着替えや排泄介助などプライバシーに関わる場面では、同性の職員が対応するなど、子どもと保護者が安心できる環境づくりに努めている。</p> <p>職員は子ども一人ひとりの信頼関係を築き権利を尊重し誠意をもって対応している</p> <p>新BOPでは子どもの権利を守り、一人ひとりの意思や気持ちを大切に支援を行っている。子どもが嬉しいことや困りごとを安心して話せるよう、日常の会話を通して信頼関係を築き、言葉遣いや接し方にも誠意をもって対応している。家庭の状況や価値観にも配慮し、面談や連絡の方法や日程などは、それぞれの事情に合わせて柔軟に行っている。館長は定期的にミーティングに参加し、職員へ子どもの権利に関する意識づけを行っているほか、区の子どもの権利ポスターを掲示し、子ども自身が権利を意識できるよう促している。</p> <p>乱暴な行為や仲間外れ等が起きた際は子どもたちと話し合い解決できるよう援助している</p> <p>子ども同士のいじめや暴力行為が起こらないよう、職員全体で予防と再発防止に努めている。日頃から、乱暴な言葉や行動は決して許さないという姿勢を子どもたちにも繰り返し伝えている。支援級の子どもを傷つける発言や、グループ内で特定の子を仲間外れにするような行為が見られた際には、当事者を集めて丁寧に話し、なぜいけないのかを個別に理解できるよう話をしている。必要に応じて保護者にも状況と対応を伝え理解を得ている。日常の会話の中で気になる発言があった場合も職員間で情報を共有し、必要に応じて関係機関と連携している。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>様々な場面に対応した手引書が用意され職員が手順を理解できるよう取り組まれている</p> <p>事業所業務の標準化を図るために、世田谷区が作成した新BOP全体の手引書に加え、烏山小新BOP独自のマニュアルを整備している。内容は児童館長の確認を経て職員間で共有されている。手引書やマニュアルは、職員が日常的に参照できる場所に保管されており、業務上の不明点が生じた際には確認できる体制が整っている。保護者には災害時や感染症の対応方法の手引書を配布している。定期的な内容の点検と更新を行い、現場の実情に即した改善を重ねている。一定の水準を維持しつつ、子ども一人ひとりに応じた柔軟な支援が実現されている。</p> <p>当該新BOPのしおりやマニュアルは年度末に全職員で見直しを行い次年度へ備えている</p> <p>子どもの成長や生活の変化に応じて、年度末には職員全体で一年間の取り組みを振り返り、ルールや運営方法を改善している。職員向けには「運営基準」「安全マニュアル」「虐待の手引き」などのマニュアルのほか、「アレルギー対応」「入会事務」「おやつ提供」「掃除手順」などの手引きを整備し、業務の統一化を図っている。全職員に当施設独自の「烏山手帳」を配布している。「学童クラブにしおり」や「烏山手帳」は常勤職員と館長が随時内容を確認し、年度末の評価をもとに改訂を行い、次年度初めに新しいものを配布している。</p> <p>次年度の計画は年度末の会議で子どもの声や職員の意見を反映させ見直しを行っている</p> <p>子どもからは日常の会話やおやつ時間などを通して意見を聞き取り、遊びや活動内容の改善につなげている。安全面で難しい遊びが流行した際には、職員が代替となる遊びを考案するなど、子どもの思いを尊重しながら柔軟に対応している。年度末には「どんなおもちゃや本が欲しいか」といった要望を集め、翌年度の予算に反映している。職員間ではミーティングで日々の発言や意見を共有し、運営に生かしている。また、異動のある職場環境を踏まえ、どの職員が担当しても円滑に業務が進むよう、マニュアルの整備や情報共有が行われている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>異年齢交流を活かし、子ども一人ひとりが楽しく主体的に遊ぶよう支援している</p> <p>異年齢構成を活かし、子ども同士の関係に気づく仕掛けを工夫している。例えばドッジボールでは、1年生にも外野やパス役など参加しやすい役割を与え、参加したい気持ちや成功した喜びを感じられるよう支援している。その結果、徐々に学年の差を意識せず「同じ学童の子」として自然に遊ぶ姿が見られるようになってきている。また、遊びの中では、慣れている子どもと初めて行う子どもがいることを踏まえ、どの子どもも楽しく主体的に関われるよう配慮している。これらの取り組みは、子ども一人ひとりの発達段階を尊重した援助となっている。</p> <p>子ども一人ひとりに寄り添い、発達に応じた支援と家庭への情報提供を行っている</p> <p>子ども一人ひとりの発達や状況に応じて、意見の対立があれば仲介するなど、成長につながる支援を行っている。必要に応じて遊び場所の整理等環境を整え、クールダウンスペースを活用して落ち着ける場を提供しながら、子どもに寄り添った援助を行っている。トラブル発生時には背景を丁寧に把握し、状況に応じて柔軟に対応するとともに、子どもを信じて現場で解決できるよう配慮している。また、お迎え時には経過を説明するなど家庭への情報提供も実施しており、子ども同士が良好な関係を築けるよう支援している。</p> <p>子ども一人ひとりの特性に配慮し、全員が安心して関われる場づくりを行っている</p> <p>配慮を要する子どもが抱えるハードルを職員が把握し、可能な範囲で声掛けや配慮を行いながら、安心して過ごせる環境を整えている。また、周りの子どもには個々の特性を伝え、全員と一緒に学び合えるよう工夫している。障がいのある子どもには個別支援を中心に行い、指導員やP・Pスタッフが関わる場合も常勤職員がフォローする体制を整えている。職員のバックグラウンドによる対応の違いを生かしつつ、日々の様子を見ながら関わり方を柔軟に調整し、全ての子どもが同じ場で安心して成長できるよう支援している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの主体的な発想を尊重し、遊びや伝承活動を通して学びと交流を促している</p> <p>遊びの中で子ども自身の「こうしたらよい」という発想を尊重し、そのアイデアを活かせる環境づくりに取り組んでいる。安全面の制約がある場合でも、職員は子どもが主体的に試行できるよう丁寧に配慮し、失敗を恐れず挑戦できる場を確保している。また、職員間ミーティングや子どもとの対話を通じて意見を収集する仕組みを整え、日常の言葉遊びやダジャレを通して他者とのコミュニケーション力を育む取り組みも行っている。さらに、誰もが楽しめる簡単な遊びや伝承遊びの導入により、遊びの幅を広げている。</p> <p>子ども同士の関わりや学びを大切にし、職員が安心・信頼の環境を支えている</p> <p>子ども同士が互いに関わり学び合う集団生活を豊かにするため、職員は仲良し関係やトラブルの兆候に敏感に気づくことを重視している。変化に気づいた場合には、状況の確認や理由の聞き取りを通じて適切に関わり、子どもが安心して交流できる環境を整えている。また、生活習慣の援助や挨拶、手洗いなどの日常行動に意味を伝えながら働きかけることで、集団の一員である意識を育むことにも努めている。職員の声掛けは「叱る」に頼らず、子どもが実感を持って理解できる表現を用い、対等で信頼に基づく関わりを大切にしている。</p> <p>子どもが主体的に関わる支援を行い、安心して過ごせる居場所が育まれている</p> <p>サッカーや鬼ごっこなどの集団遊びや、コマ・けん玉・ベーゴマなどの伝承遊びを通して、子どもが主体的に集団に関われる環境づくりに取り組んでいる。体育館が使用できない場合にはピロティなどの空間を活用し、短時間での実施や職員との共同参加を通じて、子どもが活動内容を理解しやすい工夫も行っている。また、自分の思いを伝えることが苦手な子どもには職員が橋渡し役として関わり、学校での関係やクラブ内での新しい関係形成の変化にも対応している。これにより、子どもが一人ひとりが安心して主体的に関わることができる居場所が育まれている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>日常の遊びを生かした行事や制作活動を通し子どもが意欲的に取り組めるよう支えている</p> <p>行事は「運動系」「制作」「伝承」の三分野で構成され、子どもが楽しみながら主体的に参加できるよう工夫されている。日常の遊びから発展させたドッジボールやトントン相撲などをイベント化し、自然な形で意欲を引き出している。行事名にも「達人になろう」など子どもが惹かれる言葉を用い、活動への期待を高めている。職員は低学年でも達成感を得られ、高学年は自分なりの工夫をこらせるよう事前に試行的な活動を取り入れている。行事を特別な体験として楽しむ場合と日常の遊びにつなげる場合を使い分け、子どもの学びと成長の広がりを意識している。</p> <p>子どもの発想を生かし、責任ある役割を通して活動に参加できる機会が用意されている</p> <p>子どもの意見は日常の会話や遊びの中から拾い上げられ、活動内容に反映されている。常設の意見箱は設置されていないが、職員が柔軟に提案を受け止め、実施中にも意見を取り入れるなど、子どもの発想を生かした運営が行われている。「子どもスタッフ」や審判、ドッジボールでの作戦を考える役割など、子どもが責任をもって関わる機会も確保されている。職員間では子どもの主体性尊重の実践が共有され、互いに実践を学び合う姿勢も育っている。今後は企画段階から子どもが自然に関わり、意見を出せる仕組みの工夫が望まれる。</p> <p>お便りには写真を掲載し、子どもの活動の様子を保護者にわかりやすく伝えている</p> <p>保護者との連携は、事前連絡や同意取得を行い、安心して子どもを参加させられる環境づくりがなされている。顔が特定できる写真の掲載については個別に同意を得るとともに、学童だよりでは匿名性を高める加工を行うなど、個人情報保護に配慮している。保護者会ではパワポイントを用いて子どもの様子を説明し、行事の意図や成果を共有することで理解促進を図っている。お便りでも写真を活用し、視覚的にわかりやすく子どもの活動を伝えている。児童館祭りなどの外部活動では、必要に応じて保護者の支援を求めるなど柔軟な協力体制が築かれている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>全員と会話を交わし、職員も一緒に遊ぶことで信頼関係を築き、来所意欲を支えている</p> <p>子どもが「来て楽しい」と感じられるよう、職員は「おかえり」と声をかけるなど、日々の声掛けや温かい雰囲気づくりを重視している。全員と一度は会話を交わすことを目標とし、職員自身も遊びに加わることで信頼関係を築いている。子どもは遊びを共に楽しむ職員に信頼を寄せ、注意や助言も受け入れやすい環境となっている。日常の会話や遊びの中で子どもの発想や希望を拾い上げ、活動に反映する工夫もなされている。掲示物や通信で活動の楽しさを伝え、子どもが意欲的に学童クラブで過ごせるよう工夫した取り組みが行われている。</p> <p>出欠管理や掲示板、おやつ時間で流れを示し、主体的に過ごせる環境を整えている</p> <p>出欠管理システムアプリを導入し、登降所状況を正確に把握している。勉強時間やおやつ時間を設定し、日課を明確に示すことで、子どもが1日の流れを理解し、見通しを持って過ごせる環境が整っている。掲示板では体育館・校庭など利用可能な場所や遊び内容を示し、子どもが主体的に活動を選択できるよう工夫されている。おやつ時間は帰宅時間や学年に応じて柔軟にグループ分けを行い、混雑や待ち時間のストレスを軽減している。日々の運営において、生活リズムの安定と主体的行動の両立を意識した支援が実践されている。</p> <p>遊びや活動に応じた空間設定や安全配慮で、安心して楽しく過ごせる環境を整えている</p> <p>遊びや活動の内容に応じて空間を設定し、広さや安全面に配慮した環境づくりが行われている。1階は椅子に座ってできる遊び、2階は座卓でのブロック遊びなど、各部屋の特性を生かした配置がなされている。遊具の部屋間移動を制限することで混乱を防ぎ、管理の明確化にもつなげている。また、遊び方には多角的な楽しみ方を取り入れられており、とんとんレスリングでは、戦いを楽しむだけでなく、選手プロフィールやリングの様子を楽しむ子どももいる。安全確保のため、広い場所での活動時には職員間で情報共有を行い、注意喚起を徹底している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

学校と日々情報を共有し、授業参観や感染症への対応も一緒に進めている

学童クラブの職員は、学校の担任や管理職と日常的に情報を共有し、良好な関係を保っている。主事や警備員とも連携し、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。授業参観や学校行事にも職員が参加し、学校での様子を把握することで、学童クラブでの活動に活かしている。また、感染症の流行時には、保健室掲示板の情報を参考にし、学級閉鎖等の状況は学校から連絡を受けて対応している。こうした日常的な連携により、学校と学童クラブの間で子どもの生活の連続性が守られ、安心して学童クラブで過ごせる環境が整えられている。

不登校や配慮が必要な子どもに、学校と連携し安心できる環境を整えている

不登校や特別な配慮を必要とする子どもについては、学校とこまめに情報を交換し、子どもの気持ちや状況に応じたきめ細かな支援を行っている。必要に応じて担任とも情報を共有し、その内容を基に学童で過ごしやすい環境を整え、個別対応も適宜行うことで、子どもが落ち着いて安心して過ごせる環境づくりに努めている。保護者には過度な情報提供を避けつつ、必要な内容を丁寧に伝え、不安を和らげる配慮も行っている。また、職員間でも配慮事項を共有し、状況に応じて柔軟に対応できる体制を整えている。

関係機関と連携し、情報整理と共有で安心して支援できる体制を整えている

子ども家庭支援センターや担当課、学校など関係機関と情報を共有し、ケース会議や面談を通じて子どもの状況を把握し、適切な支援方針を立てている。対応にあたっては窓口となる職員を定め、情報の整理や統一を行うことで、関係者間の混乱を防ぐ工夫をしている。また、職員の異なる職場環境での情報やり取りには機密性に十分配慮している。こうした連携体制を通じて、保護者や関係者に安心感を伝えるとともに、支援の一貫性や質の向上、さらに子ども一人ひとりに寄り添った適切な対応にもつなげている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

おやつ時間は、仲間と過ごし安心して交流できる生活の一場面として大切にされている

おやつ時間は、単なる飲食の場ではなく、子どもたちが一日の出来事を語り合い、仲間や職員との交流を深める生活の一場面として位置づけている。職員は温かい雰囲気づくりを心がけ、食事の礼儀や姿勢についても声をかけている。また、おやつ時間を活用してインフォメーションを伝えるなど、子どもたちに必要な情報を共有する場としての役割も担っている。ランチルームを借用し、全員が着席してから開始するなど、子どもが落ち着いておやつを楽しめるよう環境面に配慮し、おやつ時間が子どもにとって安心してホッとできる大切な時間となっている。

配膳や水分補給に配慮するとともに、安心して過ごせるおやつ時間の確保に努めている

おやつ提供は、平均して午後4時から始まり、子どもの来所状況に応じて3交代制で実施されている。帰宅時刻の早い子どもにも配慮し、量や提供のタイミングを調整するなど、短時間でも楽しく過ごせるよう工夫している。また、活動内容や季節に応じて提供方法を柔軟に変更し、麦茶の補充など水分補給の体制も整えている。おやつは区から届くが、組み合わせに工夫を加え、子どもが「おいしそう」と感じられるよう意識している。配膳にあたっては衛生面を重視し、皿を用いた提供を徹底するなど、安全で安心できるおやつ時間を実現している。

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>安全対策と衛生管理を通して、子どもが落ち着いて活動できる環境を整えている</p> <p>子どもが安全に活動できる環境を確保するため、体育館での遊びの制限など具体的な安全措置を講じている。これらの制限は単なる禁止ではなく、「〇〇だから危ない」と子ども自身が理由を理解できるよう説明しており、事故防止に向けた意識啓発として機能している。さらに、手洗いや衛生面の声かけ、消毒や清掃など細部にわたる衛生管理もされている。子どもは日常生活の中で自ら安全行動を意識し、安心して活動できる環境が整えられ、職員が意図的に環境整備と指導を組み合わせ子ども自身の安全意識の向上と心身の健康維持に資する支援が行われている。</p> <p>職員同士で相談しながら状況を確認し、それぞれのケースに応じて適切に対応している</p> <p>子どもの体調や既往症に関する情報を職員同士で丁寧共有し、複数人で確認しながら対応することで、安心して過ごせる環境づくりに努めている。体調がすぐれない場合には、保健室の借用など休む場所の確保や、パーテーションによる仕切り、保護者への迎え依頼など、安全を最優先とした配慮を行っている。また、看護師や経験者の助言を参考に、必要に応じて医療機関へ迅速に連絡できる体制も整えている。職員同士の連携や工夫によって、子どもたちの心身の健康が確実に守られている。</p> <p>怪我や体調不良の記録を共有し日々の改善を重ねて、安全に配慮した運営を心がけている</p> <p>怪我や体調不良の記録をすべて蓄積し、基本的な対応ルールとして職員間で共有している。怪我の発生状況や時期に応じて、遊び方の見直しや巡回強化などの改善策を速やかに行い、安全管理に活かしている。また、頭部や首周りの怪我については、保護者への連絡や必要に応じた救急対応のルールが明確にされ、日常的な助言や現場での判断に基づいた対応も行われている。こうした日々の記録と改善の取り組みによって、安全に活動できる環境が確保され、安全管理体制の充実にもつながっている。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者会では子どもの様子を伝えると共に保護者同士の交流が生まれるよう配慮している</p> <p>子どもの帰宅時間の調整や声かけの内容については、家庭の事情を踏まえて相談の上で柔軟に対応している。日々の出欠管理や子どもの様子を丁寧に伝え、デリバリー弁当の実施など新しいサービスについても適切に周知している。保護者との連携を深めるため、年2回の保護者会を開催しており、多くの保護者が参加している。会では、いつも遊んでいる子どもの友達関係を踏まえて保護者同士が近くの席に座れるようさりげなく促し、親同士が認識し合い、親しくなれるよう援助している。家庭と新BOPが協力しながら子どもの安全と成長を支えている。</p> <p>保護者には迎えるの時や個人面談で子どもの成長を伝え職員との信頼関係を築いている</p> <p>保護者が気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にしており、お迎えの際にはその日の出来事や子どもの小さな変化を伝えている。必要に応じて電話で連絡をとるが、電話での対応が難しい場合には面談を行っている。連絡帳の代わりに「連絡ケース」を使用し、ケガや重要な連絡は手紙や電話で確実に伝えている。「新BOPだより」では、活動の様子を写真や文章で紹介し、個人面談では子どもの成長について話し合う機会を設けている。特に1年生の保護者の参加率は8割と高く、職員と保護者が信頼し合いながら、子どもの育ちを共に見守る関係が築かれている。</p> <p>出欠席の確認は子どもの安全が第一と考え職員は徹底した確認を確実にしている</p> <p>子どもの安全を第一に考え、出欠席の確認は丁寧に行っている。出席予定の子が来ていないときには、すぐに保護者へ連絡を取り、不在が確認された場合には通学路の様子を確認するなど、その時々状況に応じて柔軟に対応している。出欠の確認は子どもの命に関わる大切なこととして、職員全員が意識を共有し、日々の運営の中で確実に行うよう心がけている。また、家庭ごとに事情が異なることを踏まえ、子どもの自立の状況や保護者の思いを聞きながら、支援の方法を相談して決めている。家庭と学童クラブが協力し安心して過ごせる環境作りがされている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>移動児童館や児童館祭りへの参加で管轄の児童館と連携して交流事業が行われている</p> <p>この地区は世田谷区の中でも地域の結びつきが強く、以前から各施設間や住民との関わりを大切にしている。管轄の児童館とは日頃から連携し、職員は週1回の職員会議や子育て広場に参加し、地域や児童館の様子を把握している。児童館職員が移動児童館として来訪し、子どもたちと交流する時間もある。児童館まつりへの参加は積極的に行われ、新BOPで1店舗任され、学童での日頃の遊びをまつりに取り入れている。児童館職員の似顔絵の掲示で子どもたちが児童館に親しみを持つよう促し、児童館のおたよりを掲示して地域行事の参加が呼びかけられている。</p> <p>地域の大人たちとの関りで子どもたちの体験の幅が広がり社会性が養われている</p> <p>日常の遊びの中に読み聞かせの会が設けられ、地域の方が携わってくれている。スポーツ活動では、それぞれの職員の得意を生かし現場と一緒に活動しながらボールの投げ方やルールを教え、子どもたちの意欲や関心を広げている。PPの大学生が子どもの活動に積極的に参加することで、子どもたちは職員以外の大人と接して社会性が育まれている。</p> <p>子どもたちは校庭での地域の遊びに参加し地域の大人たちと関わる経験を重ねている</p> <p>小学校の「遊び場開放運営委員会」が行っている土曜日の校庭遊びに子どもたちが参加し、地域の子どもや大人と一緒に遊ぶ時間を持っている。「おまつり」では、学童クラブとして凧作りを出展し、子どもが絵を描いた凧を校庭で揚げるなど、地域行事の一員として活動した。過去にはゲーム屋さんとして出店したこともあり、児童館やPTA、父母の会、地域のスポーツ団体など多くの人との交流が生まれている。本やおもちゃの寄付も受けるなど、暖かい支援が提供されている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	職員が、お互いを支え合いながら成長を促す職場風土を大切にしている	
内容①	事務局長は、長年にわたる児童福祉と地域教育の経験を次世代に継承することを使命とし、現場の先頭に立ちながらリーダーシップを発揮している。後進育成では「言葉ではなく資料で伝える」「実例で示す」を信条とし、課題に対して複数の選択肢を提示しながら、自ら考え行動する力を育くみ、個々の成長を尊重する姿勢を大事にしている。こうした柔軟で誠実な姿勢は職員全体に浸透し、互いを支え合いながら成長を促す職場風土として定着している。この風土が組織の一体感と持続的発展を支える原動力となっており、事業所の安定的な運営に寄与している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル②	発達や環境を踏まえ、変化に気づきながら一人ひとりに寄り添った支援を行っている	
内容②	子ども一人ひとりの発達や生活環境を踏まえ、日々の関わりを通して個々の姿を丁寧に把握している。登室時には「おかえり」と声をかけ、学校での様子を引きずる場合や新たな友人関係の変化にも気を配っている。職員は表情や言動の変化に気づくことを重視し、そのために日常の状態を把握することを大切にしている。日々の会話を通じて子どもの気持ちを受け止め、必要に応じた支援方法を検討している。ミーティングでも変化への気づきや対応を共有し、発達や心身の状態に合わせた援助を行うなど、一人ひとりに寄り添った支援が実践されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル③	職員全員が共有する手引き書を作成し業務の標準化を行い質の向上が図られている	
内容③	この施設独自の職員向けマニュアル「鳥山新BOP手帳」を作成し、全職員に配布している。区の子どもの権利条約や理念に基づき、職務内容や勤務体制、守秘義務、服装、子どもへの接し方、学童の一日の流れ、けが対応など多岐にわたる。見やすい文字とレイアウトでまとめられ、日々の業務に活用しやすい工夫が盛り込まれている。毎年、子どもの状況や社会情勢を踏まえて内容を見直し、より実践的な手帳へと改訂している。年度末のミーティングでは職員から意見書を募り、それを基に業務改善を図る話し合いを行うなど、職員全体で質の向上に努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	公設学童クラブとしての役割を果たすため、地域と家庭、学童が一体となって子どもの成長を支える基盤づくりを行っている
	内容	公設学童クラブとしての役割を果たすため、地域との連携を重視している。学校や町会、青少年委員らと情報を共有する「学校連絡協議会」へ積極的に参加している。こうした継続的な関わりを通じて、地域との信頼関係を深め、子どもを中心とした地域社会づくりに貢献している。また、地域や家庭のつながりが希薄化する中で、保護者同士の関係再構築にも力を入れている。
2	タイトル	子どもの様子や行事の様子は写真を使った毎月のおたよりや保護者会で分かりやすく紹介し、保護者との信頼関係が築かれている
	内容	「新BOPだより」は学校を通して配布し、家庭に知らせたいことや子どもたちの遊びや生活の様子、行事の案内や報告など写真を交えてわかりやすく伝えられている。紙面は見やすく構成され、子ども専用のページもあることで子どもたちの興味を引く工夫がされている。区の巡回相談や地域連絡協議会についての情報も発信され、家庭と地域をつなぐ役割も果たしている。また、保護者会ではスライドを使い、職員紹介や子どもたちの生き生きとした笑顔あふれる姿がたくさん紹介され、子どもの成長や日々の活動が実感できる取り組みとなっている。
3	タイトル	おやつ時間は、安全に配慮しつつ、特別食の子どもも通常食の子どもも、職員とともに楽しく過ごす生活の一場面として位置づけられている
	内容	おやつ時間を、子どもたちが仲間と過ごす大切なひとときとして大事にしている。おやつ場ではインフォメーションを伝える時間を設け、話を聞ける環境が整えられている。ランチルームが離れているなどの構造上の理由から、職員が安全面に配慮し丁寧につき添っている。アレルギーのある子どもにも注意を払い、できる限り同じ内容を提供する工夫も見られる。職員はおやつ時間を子どもとの交流の場として活用し、日々の出来事を話しながら安心できる関係づくりを進めている。仲間とともに過ごす時間・空間が確保され、心温まる場となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域性を生かした運営で柔軟な支援を実現している一方で、実践知を相互共有する場を設け標準化を進めることに期待したい
	内容	区の学童クラブは、地域の特色を生かした運営を重視しており、それぞれの学童クラブが独自性を持って多様な取り組みを展開している。この地域性を尊重した運営方針は、子どもや保護者に寄り添う柔軟な支援体制を実現している。一方で、児童館長会議や事務局長会議などを通して取り組み内容の共有は行われているものの、現場レベルで求められる支援手法や体制づくりについては、地域や施設の状況により統一が難しいのが現状である。今後は、職員が現場で得た知見や実践事例を相互に共有できる場を設け、支援の質の標準化を図ることに期待したい。
2	タイトル	保護者からの紙面での連絡や個人面談の記録を個別に保管する仕組みを作り、職員全員が確認し取り出しやすくなるよう検討を期待したい
	内容	家庭からの伝達事項は連絡用ファイルを通じてやり取りし、クラブからの連絡も同様に手紙を入れて伝える仕組みがある。家庭から届いた手紙は個人面談ファイルに保管されるが整理が不十分で乱雑になりやすい。内容は職員間で確認され、ミーティングで共有されている。しかし保護者からの手紙や個人面談の記録が子どもごとに綴じられていないため、必要な情報に迅速に取り出しづらいという課題がある。保護者とのやり取りが多い子どもや生活面で配慮が必要な子どもについては個人ごとにファイルを作成し、体系的に整理して保管することが望まれる。
3	タイトル	看護師との連携でさらなる現場力向上を目指し、今後は児童の症例に応じた対応・処置マニュアル作成と研修実施に期待したい
	内容	看護師の助言を通して、職員の衛生管理意識の向上が図られている。これにより、感染症予防や健康管理に関する知識の定着が進み、日常的な衛生意識が高まっている。一方で、子どもの疾病とその対応方法については説明が概略的であり、現場で十分に情報共有されていない課題もある。今後は、該当児童の症例をもとに、実際の場面に即した対応や処置手順を整理したマニュアル化が望まれる。また、新たな症例には、看護師と連携し、マニュアルの更新や職員研修を通して現場支援を行うことで、より安心・安全な支援体制が構築されることに期待したい。